

こんな子どもに ☆ゆめをもち、なかまを大切に、元気いっぱい！

「秩序」と「活気」 ～ 校内の「音」に耳を傾ける

運動会を控え、子どもたちは、やる気十分で頑張っています。休み時間も応援の笛の音や明るいかけ声が学校中に響いています。

日野小としての学習・生活の大きなきまりは変わっていませんが、新しい学級、先生・友達との生活では、細かなルールが変容していきます。そのルールの中で、新しい自分をつくっていくのが5月の子どもたちです。



そんなとき、校内の音に耳を傾けてみます。学校の中には、様々な「声」が飛び交っています。子どもたちの「声」の中には、「いい声」と「あれ？と思う声」があります。何気なく見過ごすと楽しそうな子どもたちの会話に中にも、「互いによりコミュニケーションがとれている声（いい声）」と放っておくと「言い争い」や「相手を嫌な思いにさせる」ことにつながる「声」の時があります。これは人に言っただけだと心の歯止めが効かない時の会話に起こるようです。人間関係におけるルールがあやふやになっているのかもしれませんが、この「あれ？と思う声」が、たくさん聞こえる時でも、一見、子どもたちが元気で活気があると錯覚しがちです。これは、私たち教師がしっかり聞き分けなくてはなりません。

「いい声」が聞こえる時、そこには「秩序（落ち着き→『静』の姿）」があります。それを土台とした「いい声」が聞こえる時、「活気→『動』の姿）」がつくられます。子どもたちの「声」は、お医者さんが脈をとることとにているような気がします。

写真は運動会の練習の一コマです。運動会を通して、子どもたちの「いい声」をさらに増やしたいと思います。

○どの子ども自分が出せるように ～第一歩は「あいさつ」から

子どもたちは心がけて、よくあいさつをしてくれます。とても、うれしいことです。まだ、日野小学校にきて一月半ですが、あいさつを交わすととても幸せな気持ちになります。今日も元気に学校に来てくれてありがとう！という思いです。

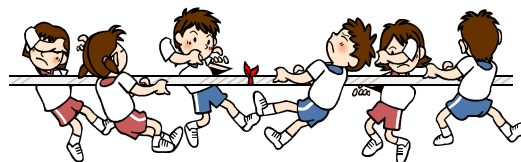


子どもたちとあいさつをするときに心がけているのが、「目を合わせてあいさつ」ということです。子どもたちの中には、大きな声を出すのが苦手な子もいます。あいさつしようという気持ちがいっぱいあっても、声で表現することが、今はちょっと難しいというお子さんです。子どもたちの目を見れば、その子がどんな気持ちなのか、伝わってくるものがあります。だから、「目を見てあいさつ」を大切にしたいのです。

また、目を合わせることで、心を開くことのできるホルモンが分泌されるという効果があります。別名、幸せホルモンや愛情ホルモン、絆ホルモン、思いやりホルモン等とよばれるオキシトシンのことです。オキシトシンには、「ストレス解消、不安減退、学習意欲の向上、感染症予防」等々の効果があるとされています。

IT 革命の副作用で、「現代（リアル）＝オフライン」でふれあいの機会がどんどん減少してしまい、「キーボードかスマホ画面」に触れることの多い 21 世紀スタイルに慣れきった現代人だからこそ、この「オキシトシン」を大切にしたいですね。

○「PM_{2.5}対策」について



学校では、佐世保市の HP 掲載の速報値により、その日の状況を把握しています。佐世保市では注意喚起の判断基準を次のように設定しています。

早朝の 3 時間の測定値の平均値が 85 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超過した場合、日平均値が 70 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超過する可能性があるとして判断されたとき

その場合、佐世保市環境保全課より全学校へ注意喚起が通知されます。

注意喚起が行われた場合は、児童の健康観察を行うと共に、屋外での激しい運動や長時間の運動をできるだけ行わないようにします。換気や窓の開閉をできるだけ少なくし、呼吸器系や循環器系の疾患のある子どもの体調の変化には十分に注意します。数値が高い日にお子様の体調がすぐれない場合は（特に呼吸器疾患等で）、連絡帳等で担任へお知らせくだされば、より積極的な配慮ができますので、ご協力ください。

（ 文責： 校長 高橋 ちあき ）